

病理組織学的所見

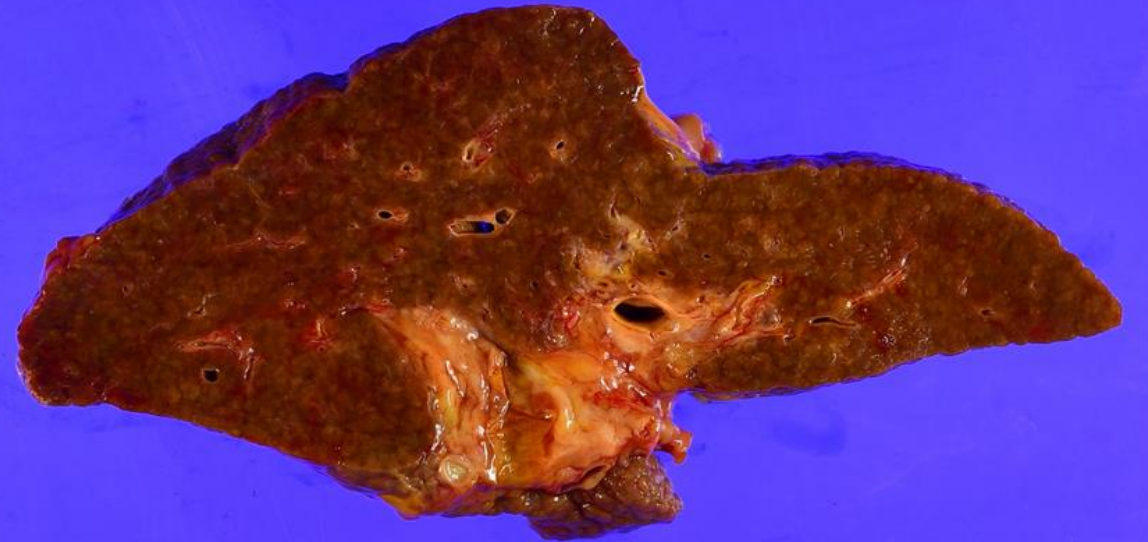
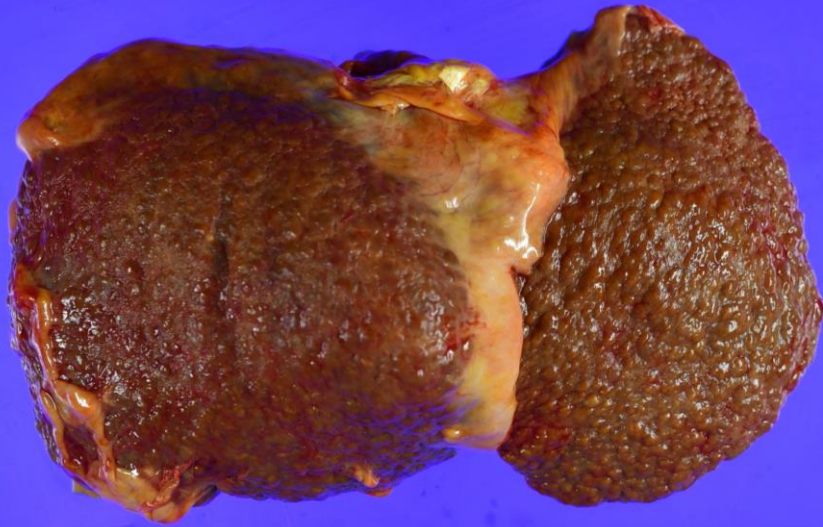
肝不全 91歳女性

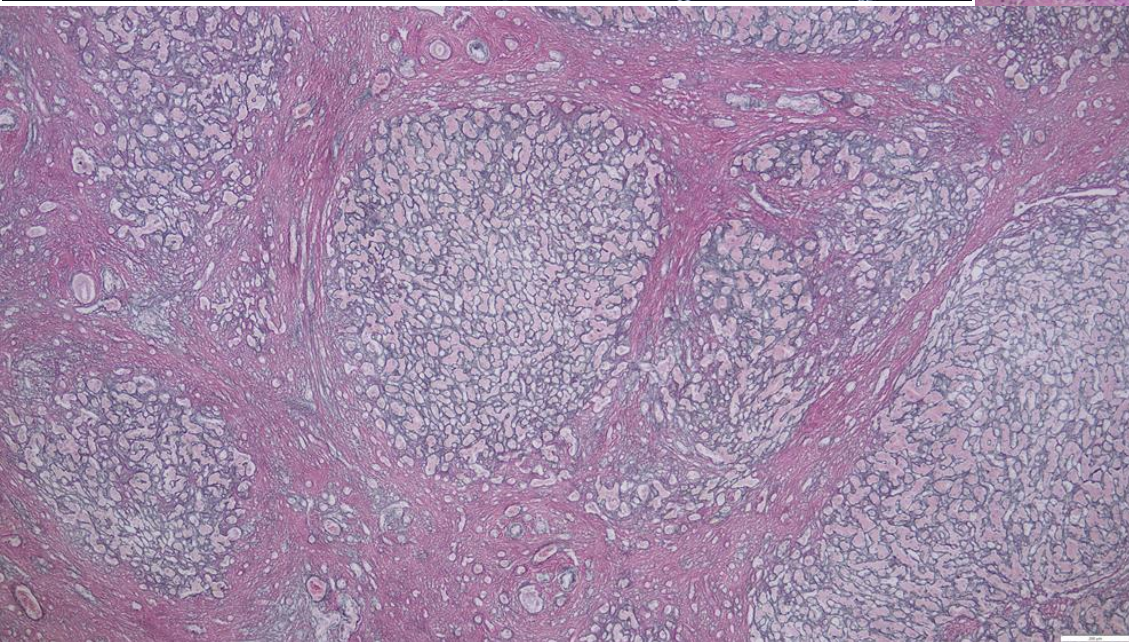
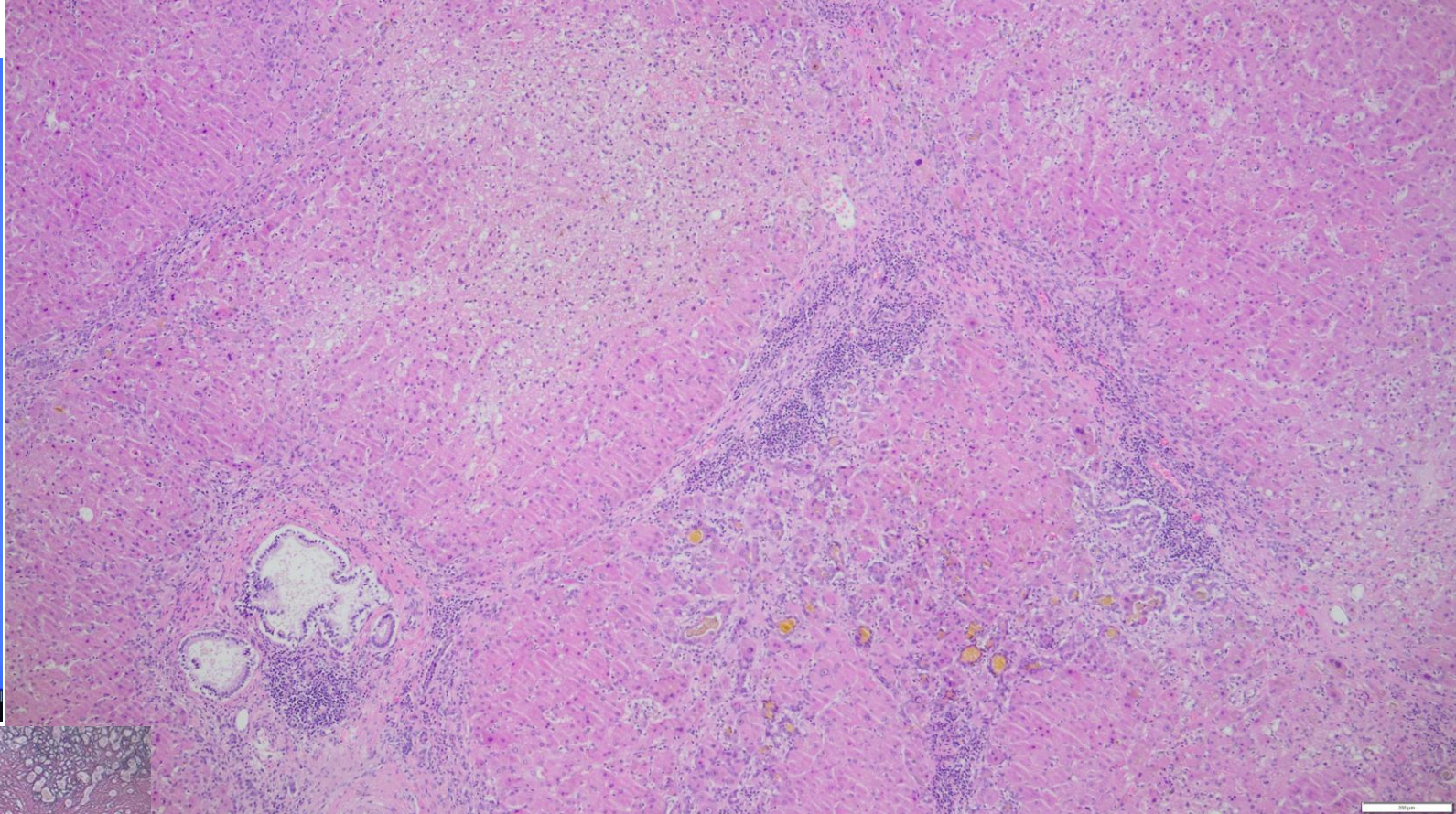
- 死後約5時間で脳を除く全身解剖を行った。
- 身長 137 cm, 体重 60 kg
- 全身の黄染が目立つ (10病日 T-Bil 17.2 mg/ml, D-bil 13.9 mg/ml)
- 胸水(Lt: 220ml, Rt: 750ml), 腹水(840ml), 心嚢水(28ml) いずれも黄色透明、漿液性。

肝臓 (385 g)

正常の肝臓の重量は約1200 g (体重の約1/40～1/50)

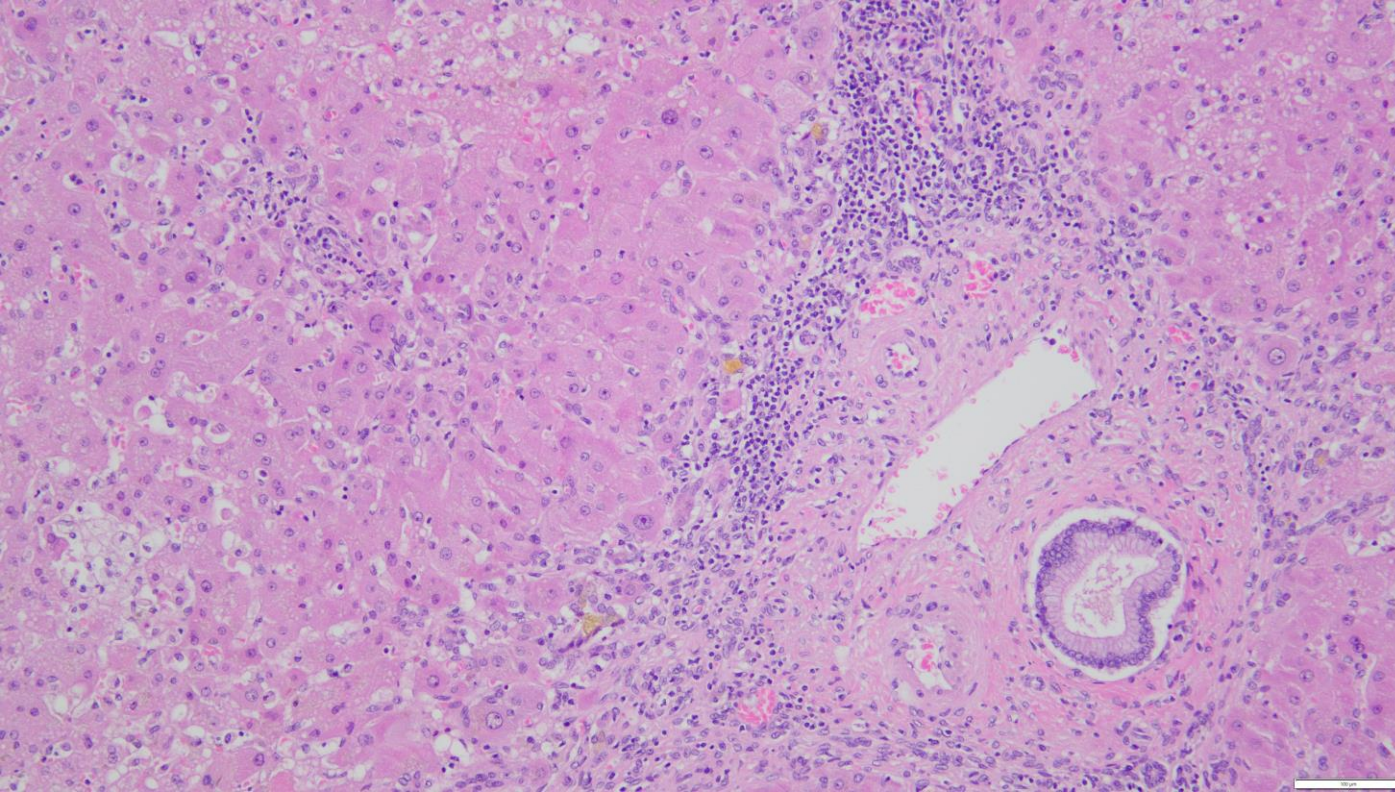
肝臓の萎縮が高度で、表面は顆粒状になっている。
肝硬変の状態。





架橋性の線維増生による小葉構造の改築
(肝硬変)

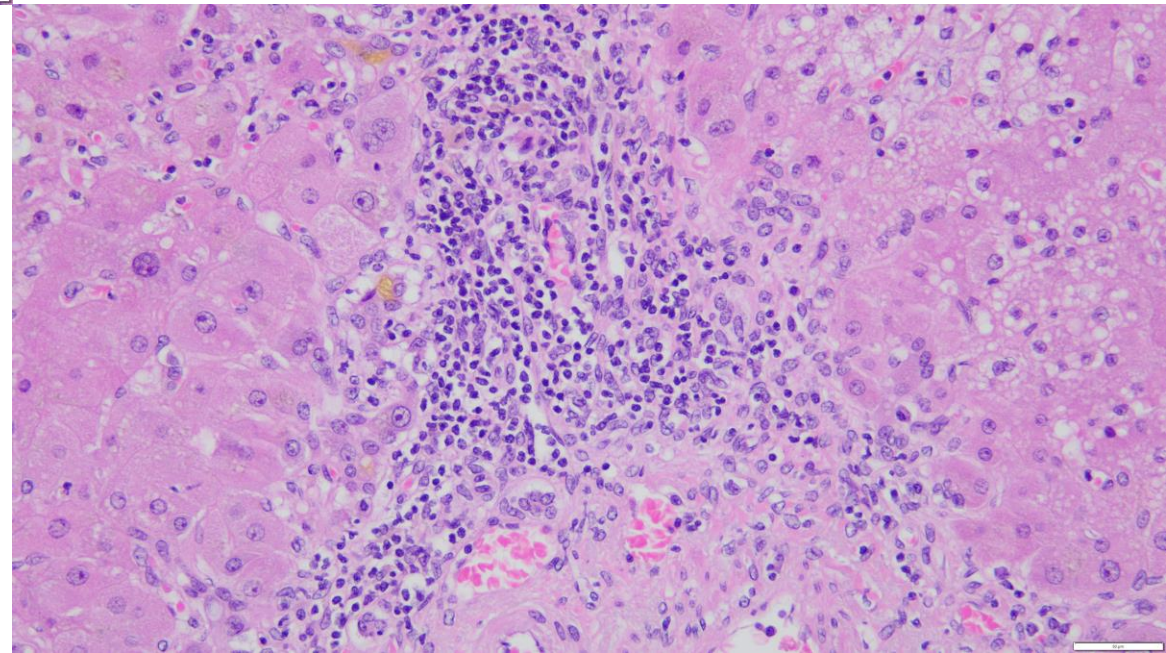
鍍銀染色

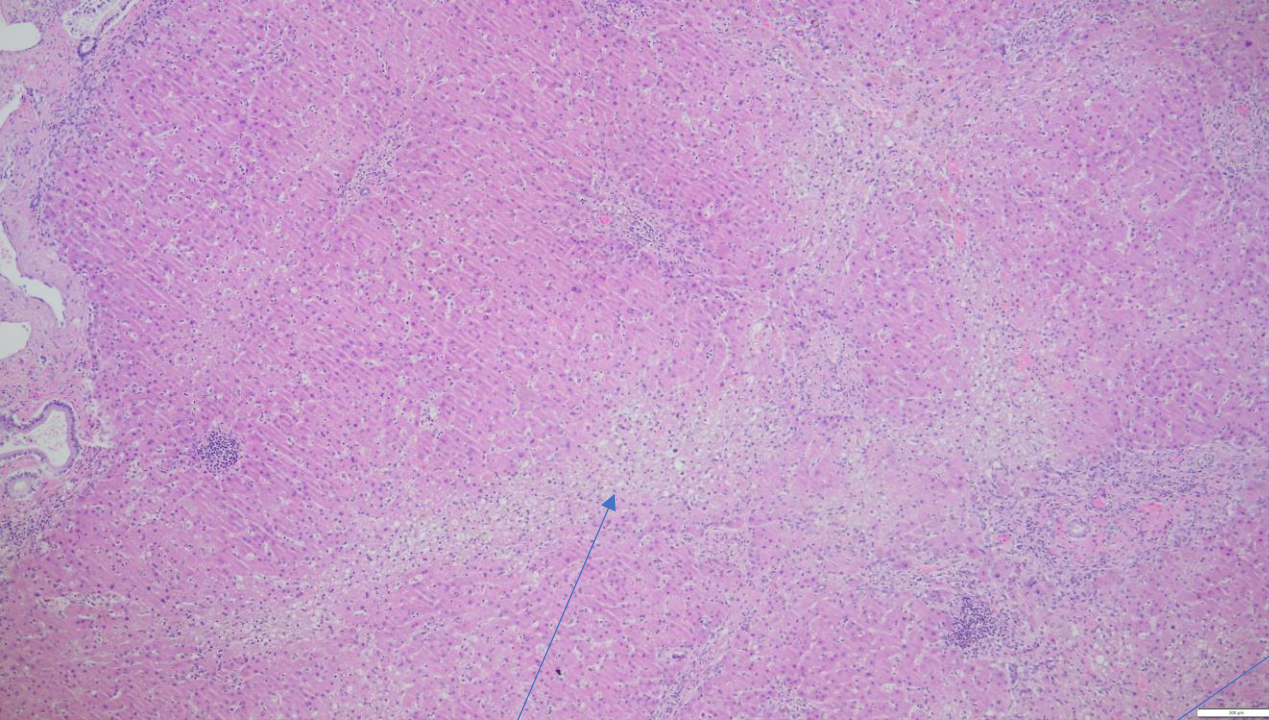


門脈域の炎症細胞浸潤

- ・ 限界板領域の肝細胞の破壊を伴って、肝実質に炎症が及んでいる (Interface hepatitis)。
- ・ 浸潤する細胞はリンパ球が主体で、形質細胞も散見される。
- ・ 胆管は保たれている。

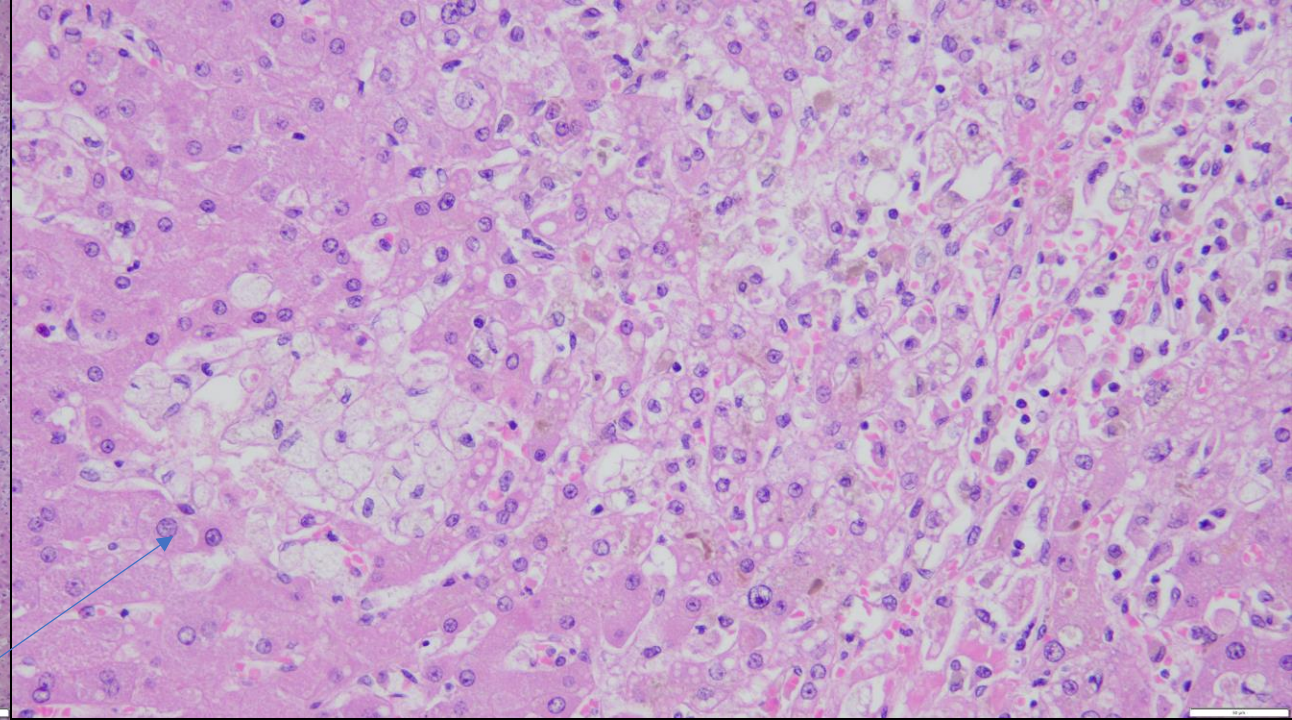
鑑別診断) ・ ウイルス性慢性肝炎
・ 自己免疫性肝炎



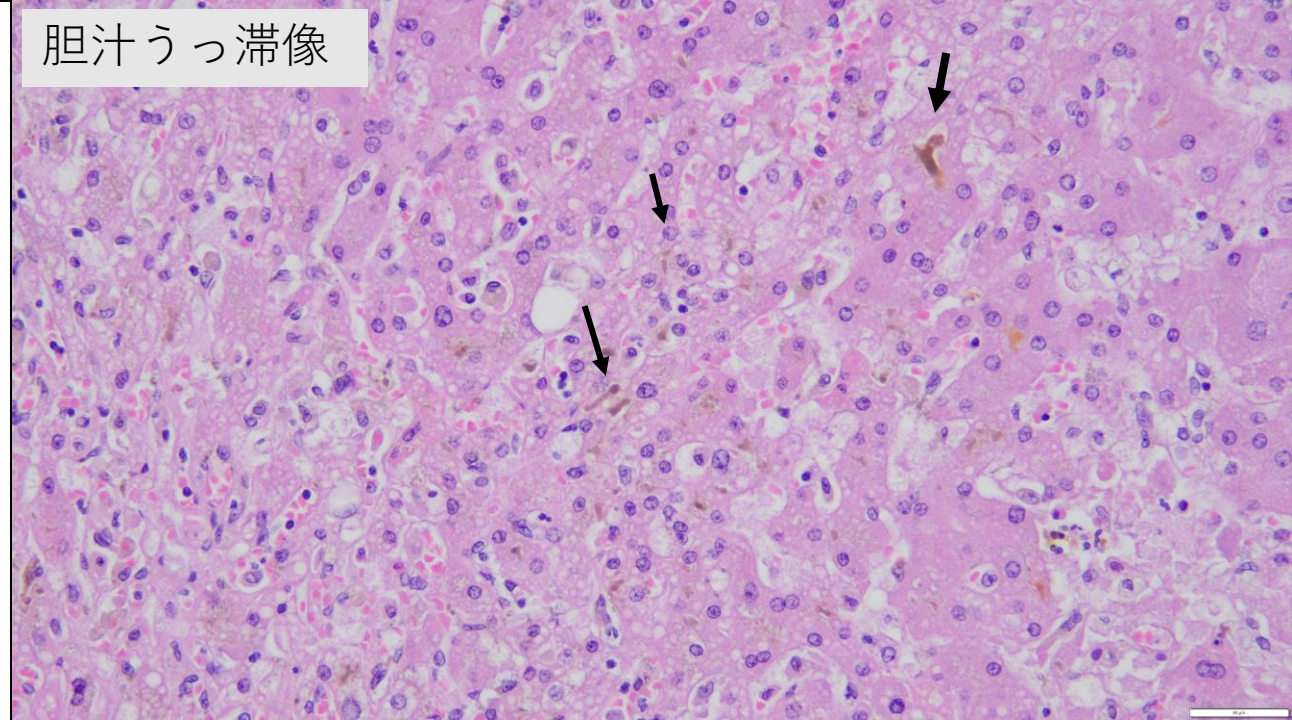


肝細胞の帯状の壊死

壊死部では、肝細胞の脱落、
組織球の浸潤がみられる。
胆汁うっ滞像がみられる。



胆汁うっ滞像

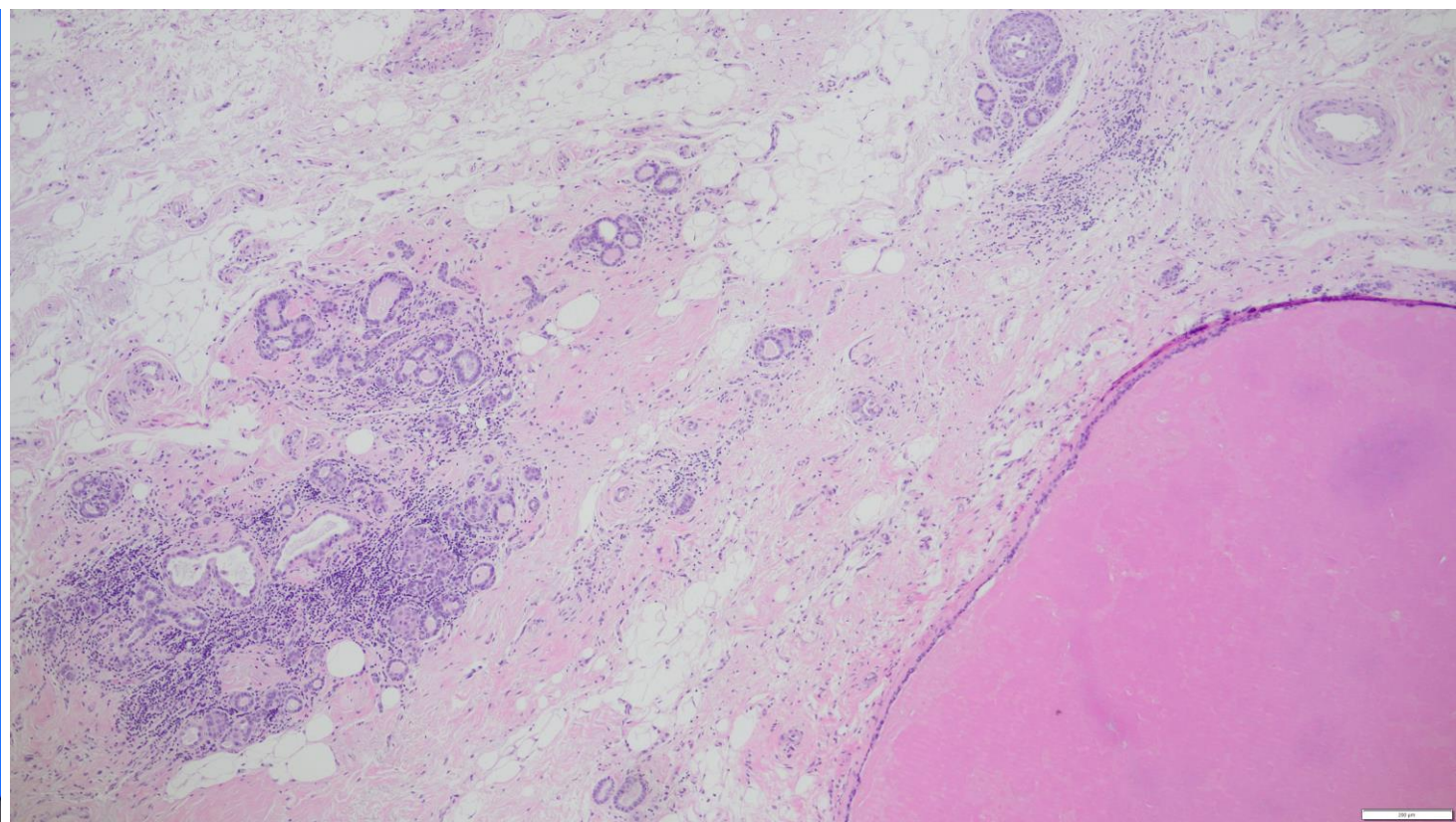
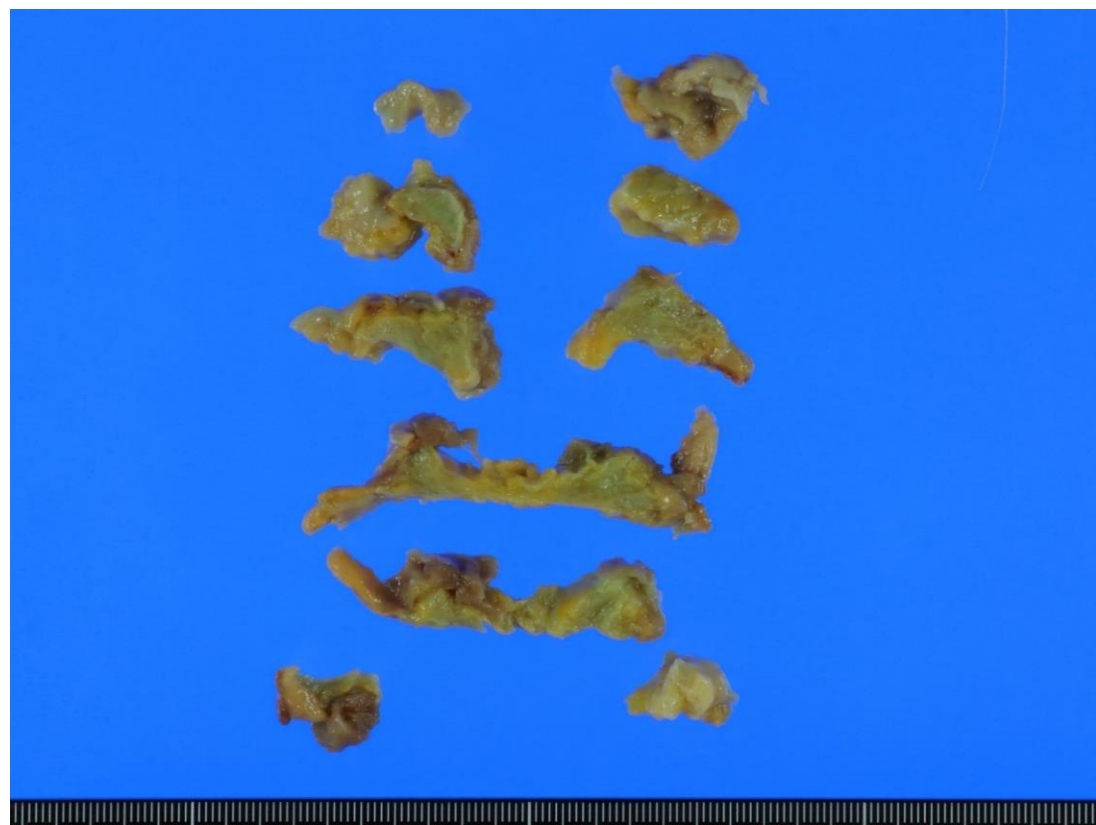


急性肝炎

鑑別診断)

- ・ 薬剤性肝炎
- ・ 自己免疫性肝炎の急性増悪

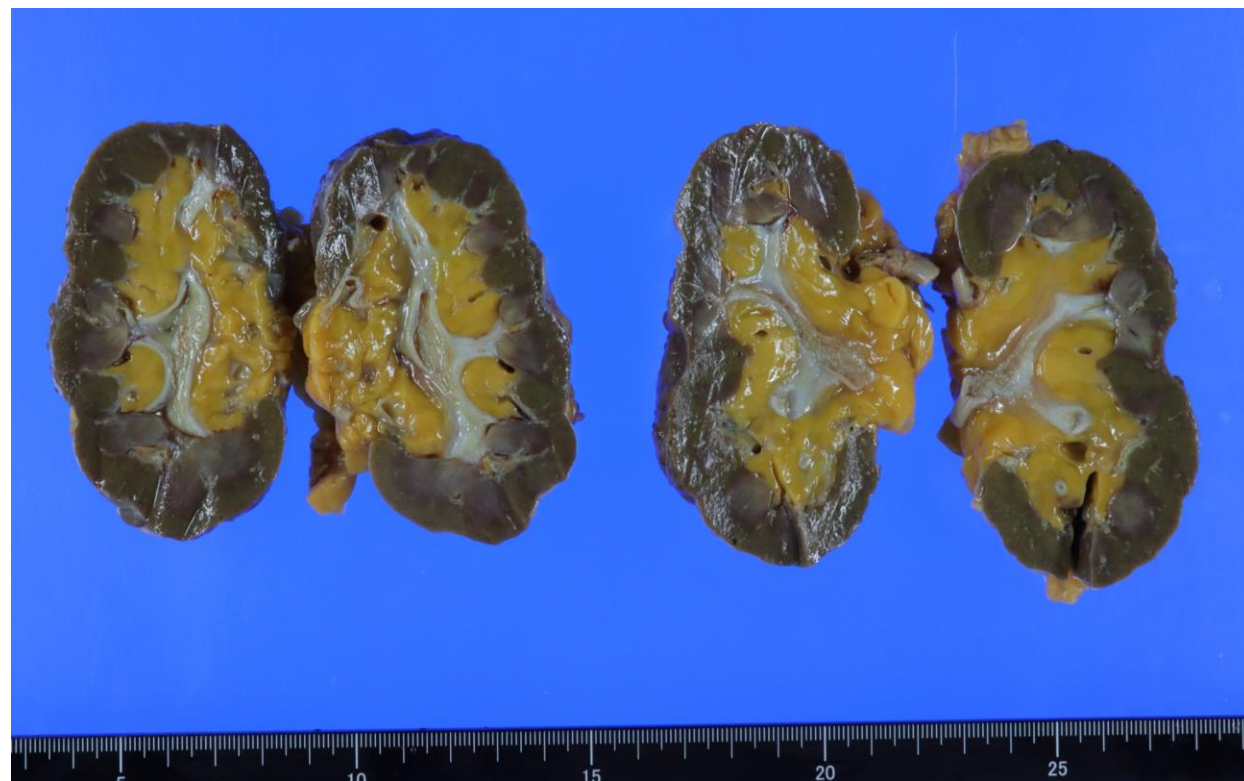
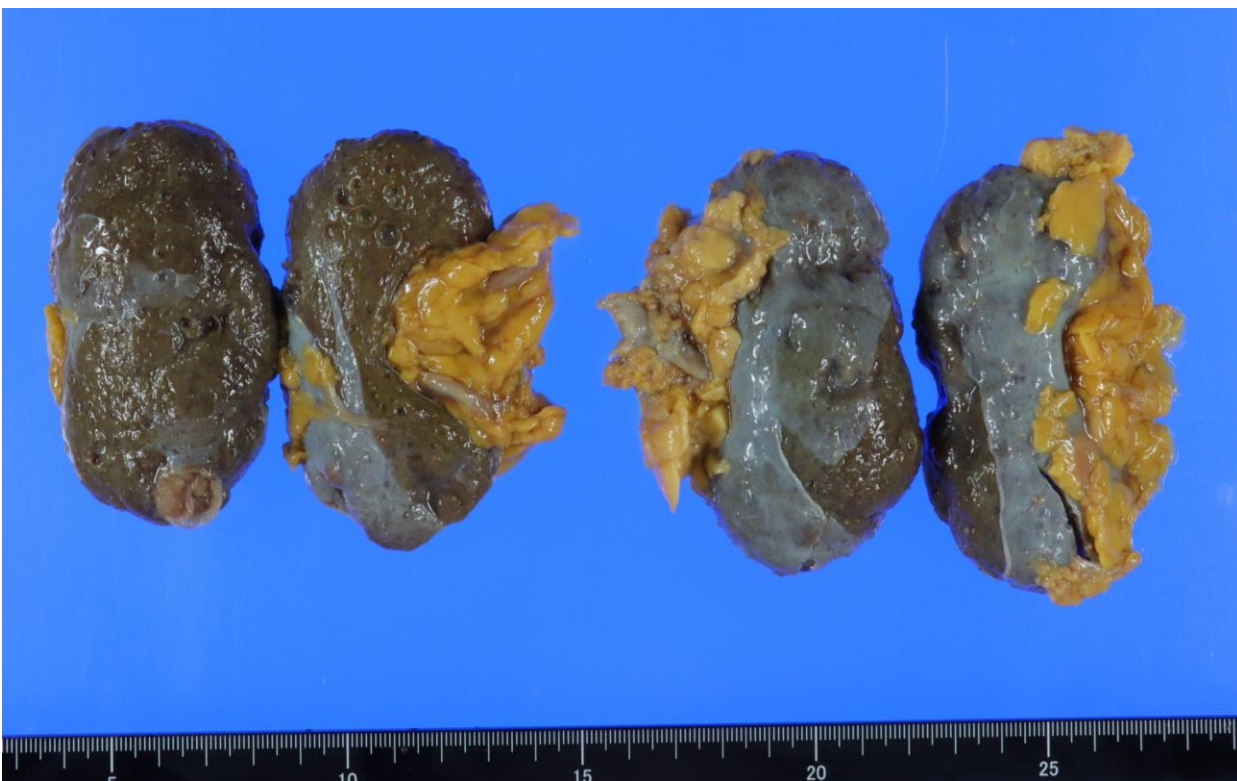
甲状腺 (10g) (正常の甲状腺の重量約16-20 g)



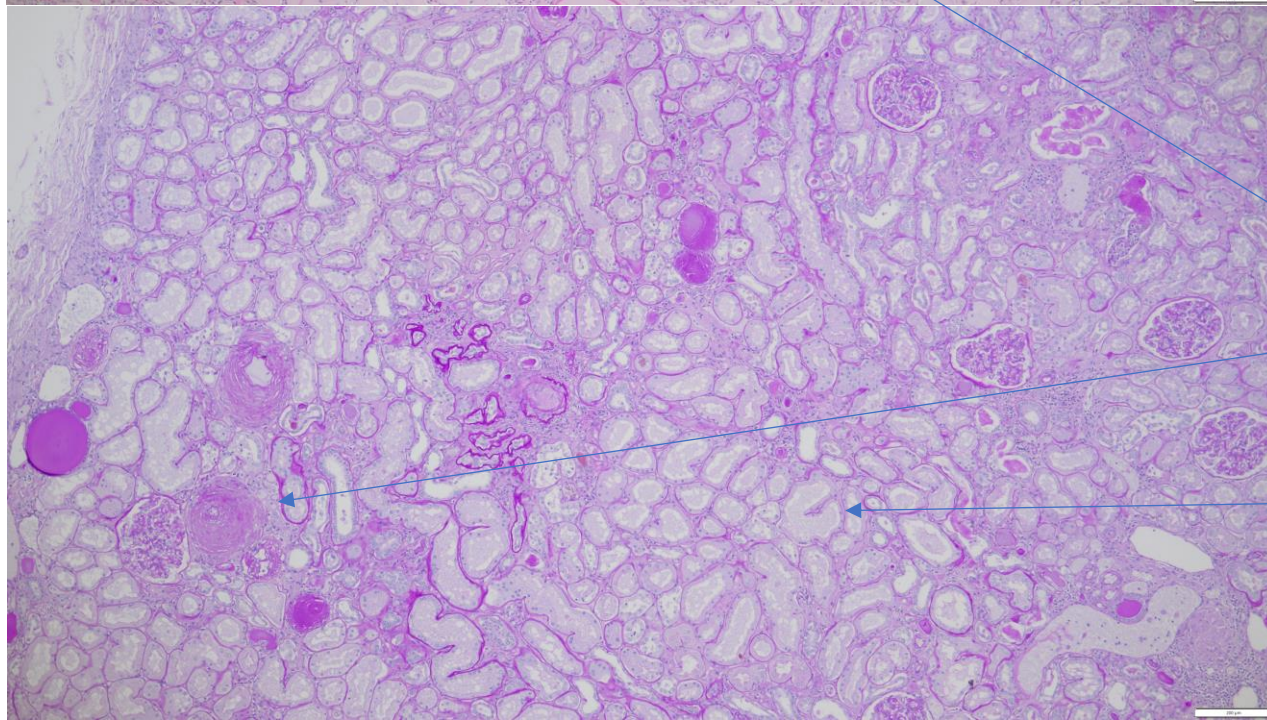
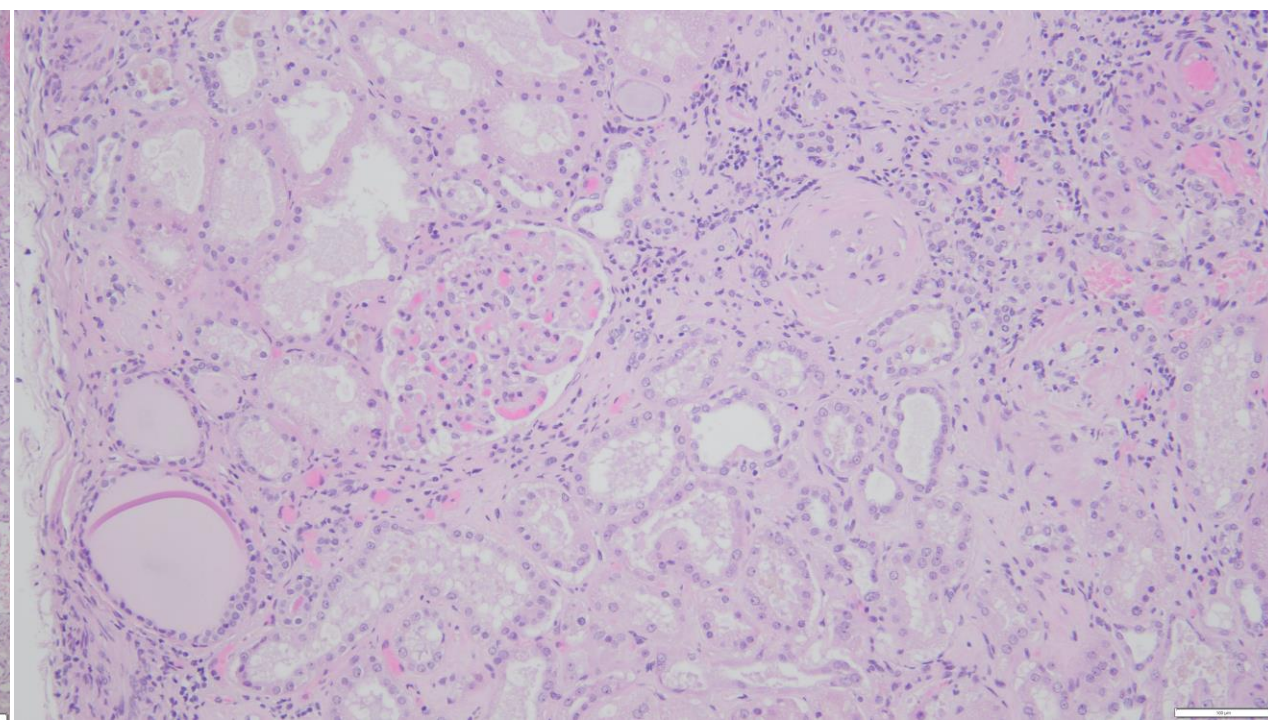
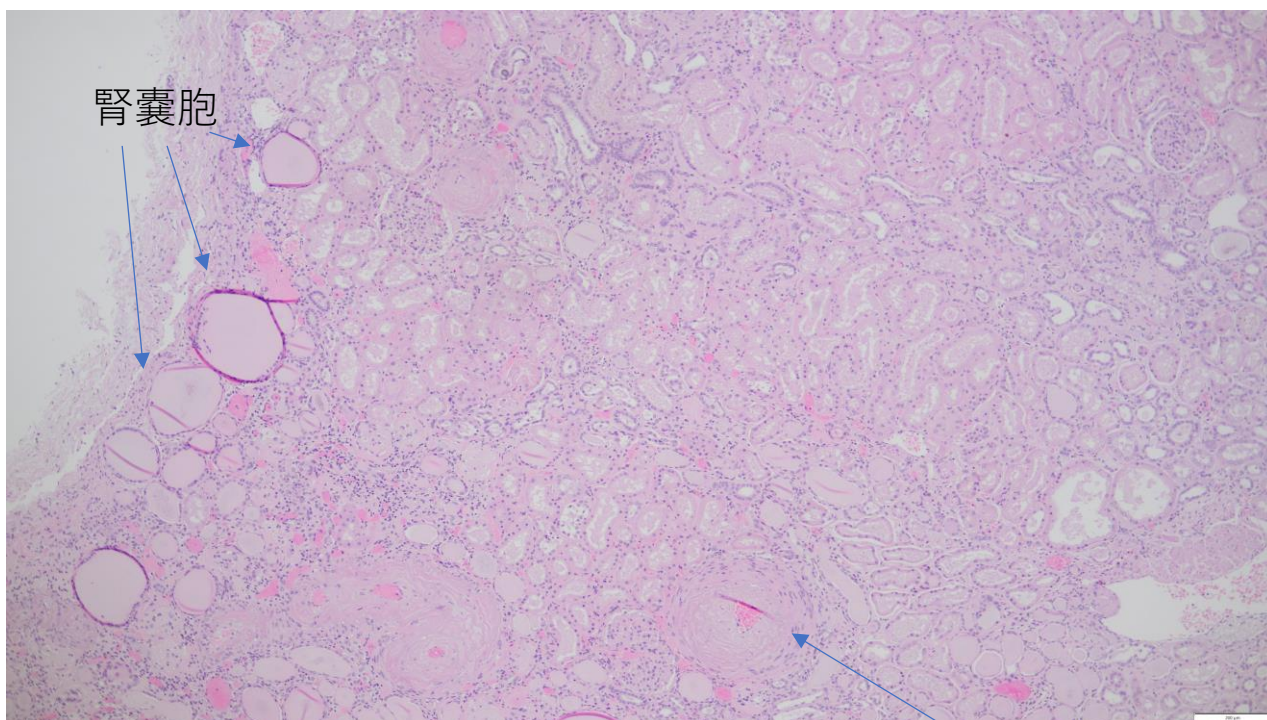
甲状腺実質の萎縮が高度である。脂肪浸潤、線維化、リンパ球などの炎症細胞浸潤がみられる。
橋本病(慢性甲状腺炎)の線維萎縮亜型が疑われる。

腎臓 (左 100g, 右 85g)

表面には凹凸があり、小さな腎嚢胞が散見される。
腎臓の皮質は菲薄化している。
腎盂の拡張はない。



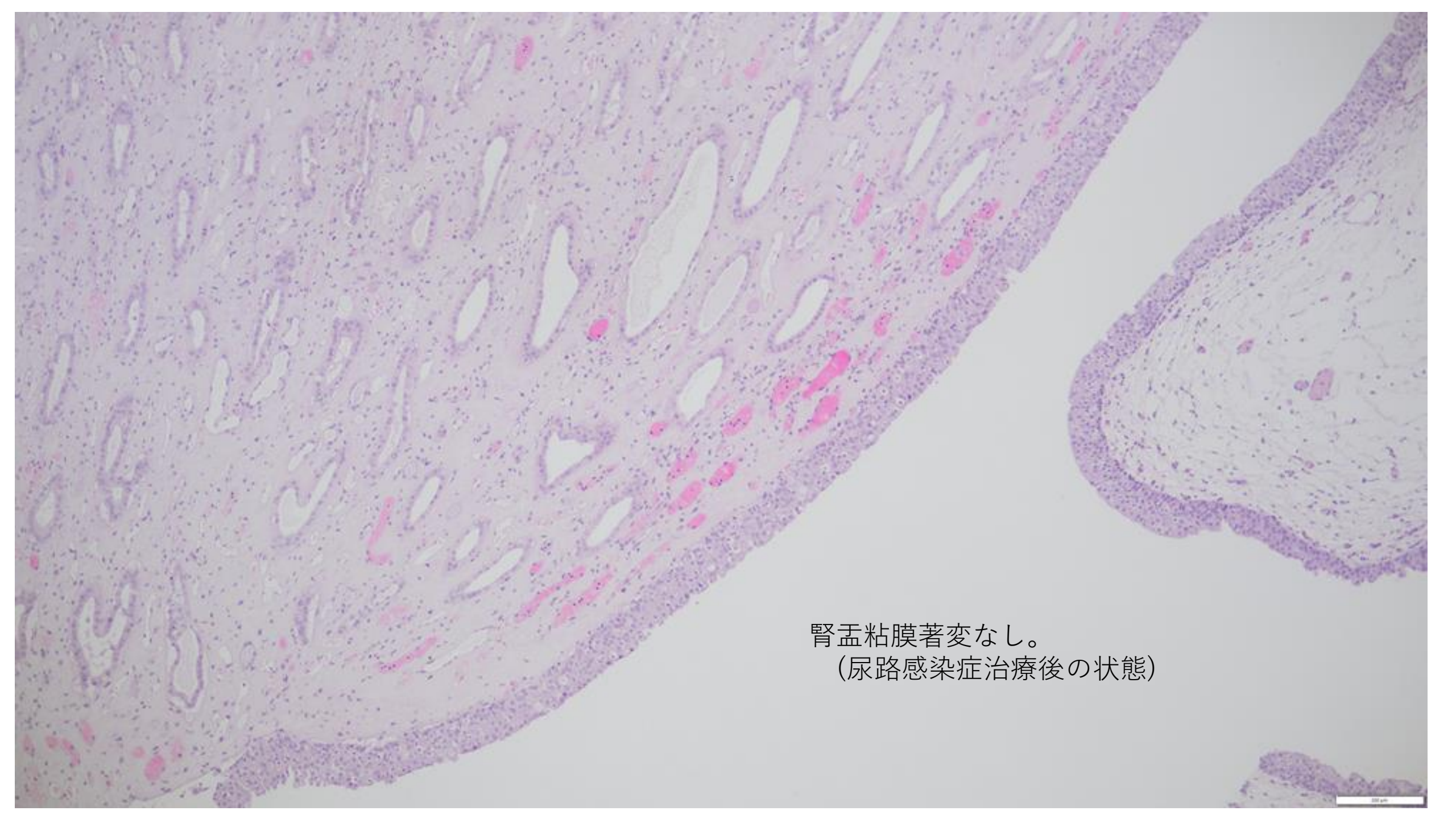
腎嚢胞



良性腎硬化症（動脈硬化性病変）

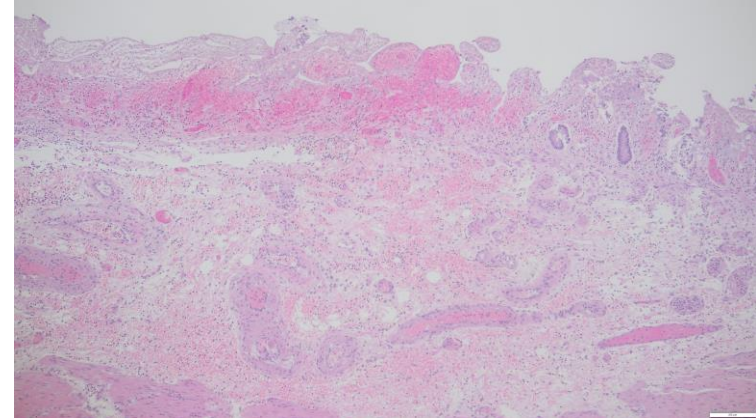
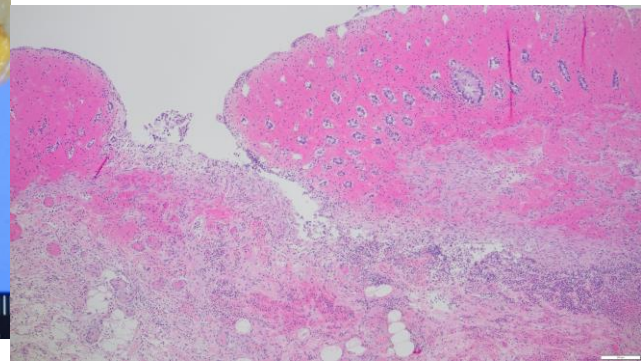
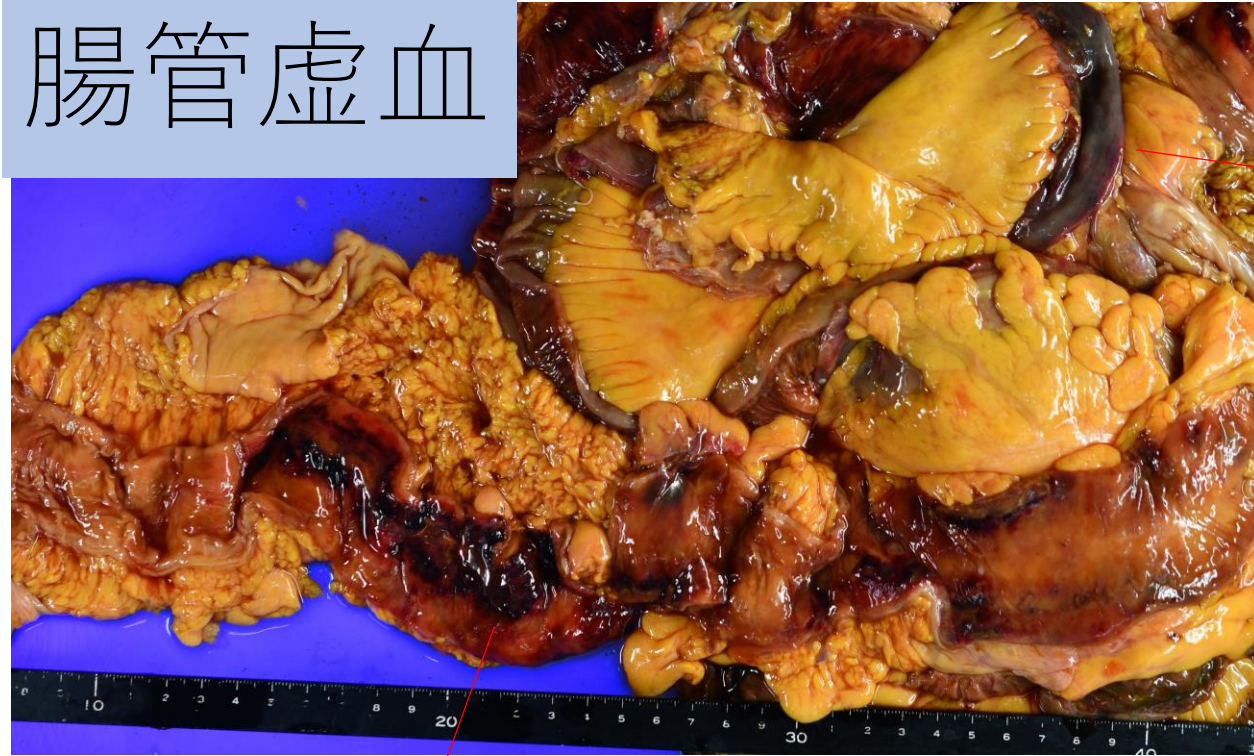
- ・小葉間動脈の肥厚、
- ・全節性硬化した糸球体が散見される。

尿細管の拡張と尿細管上皮の変性
（急性尿細管障害）

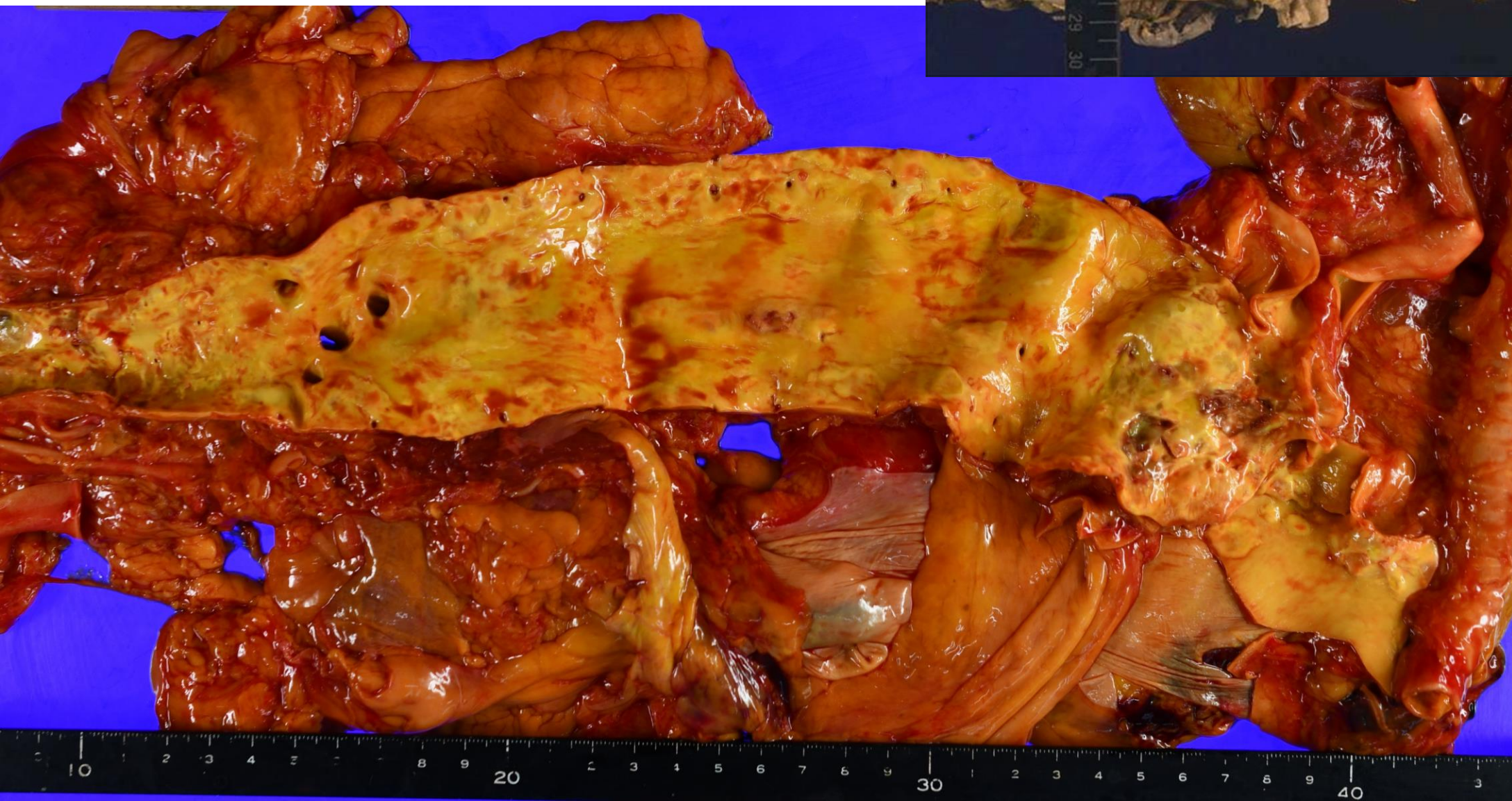
A histological section of kidney tissue stained with hematoxylin and eosin (H&E). The image shows numerous renal tubules with pale, foamy cytoplasm and distinct nuclei. A renal pelvis is visible on the right side, lined by a simple cuboidal epithelium. The surrounding interstitium contains some pink-stained areas, likely representing connective tissue or small blood vessels. The overall architecture appears normal for post-treatment tissue.

腎盂粘膜著変なし。
(尿路感染症治療後の状態)

腸管虚血



大動脈 粥状硬化 (中等度から高度)

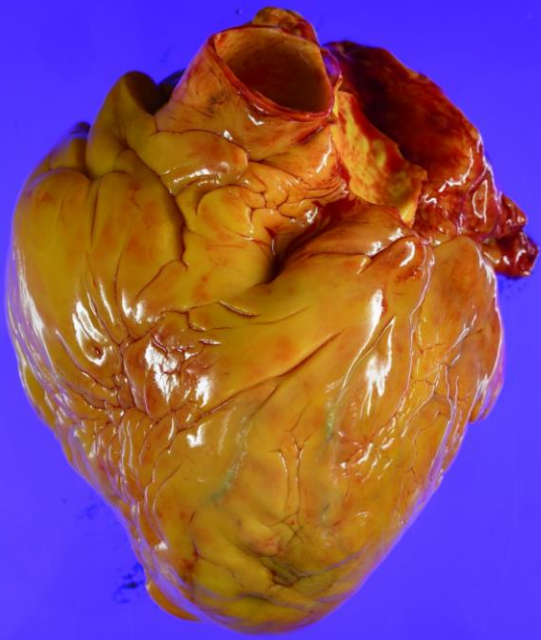


心臓

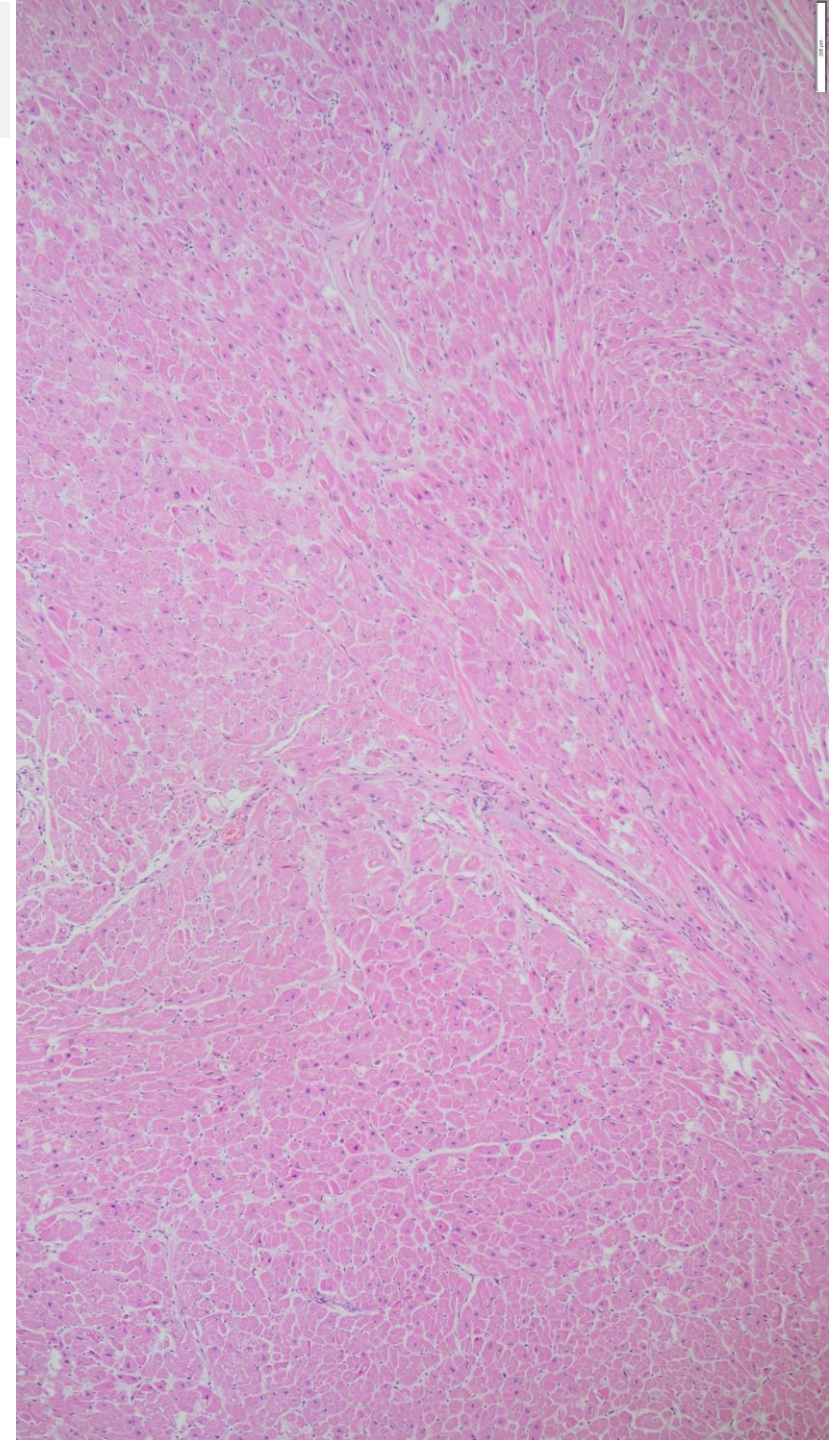
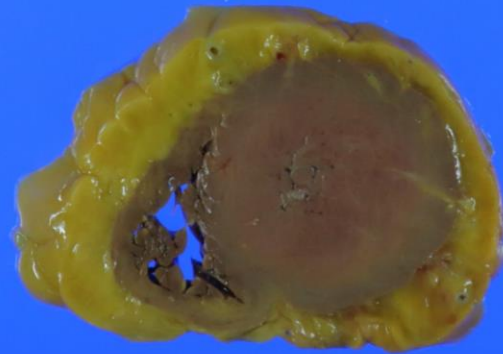
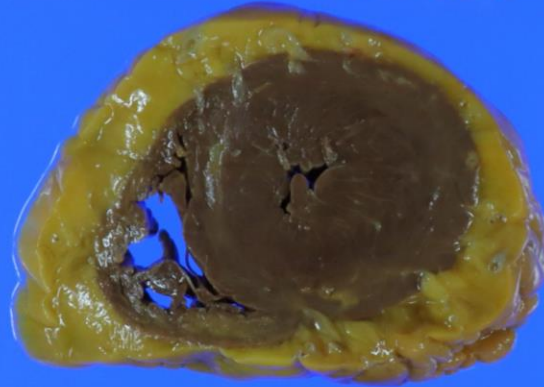
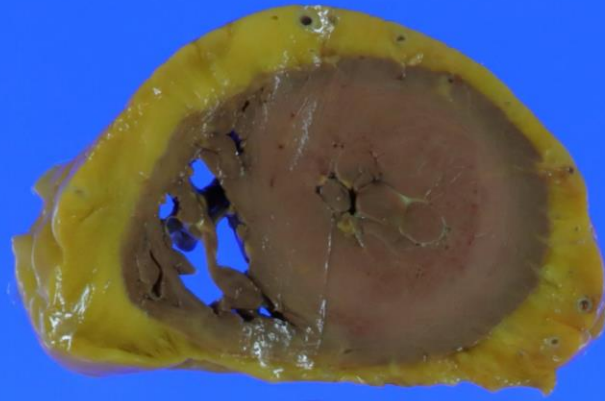
515 g, 17mm: 7mm

冠状動脈 動脈硬化 中等度

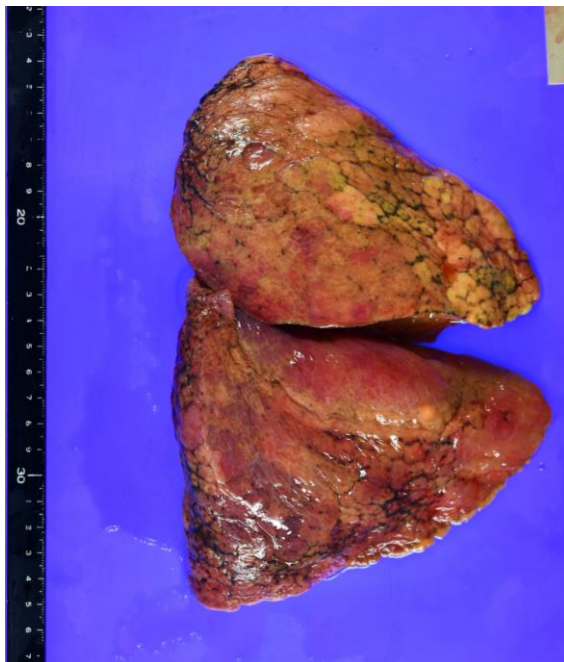
(正常 250-290 g,
左室壁 13-15mm, 右室壁3-5mm)



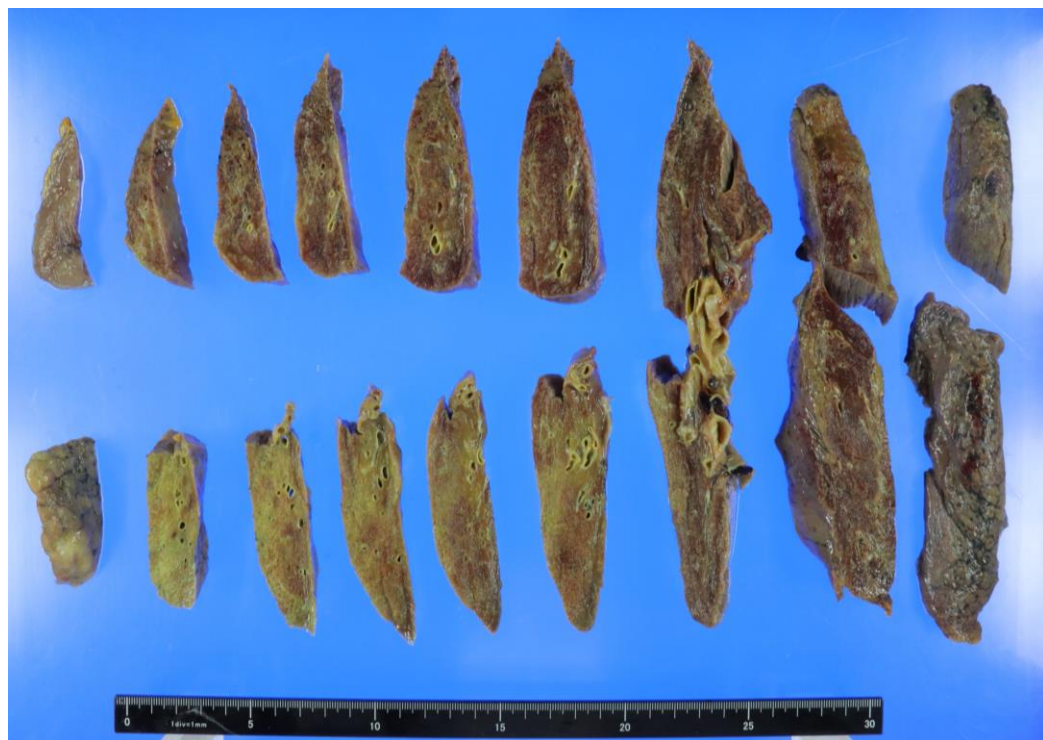
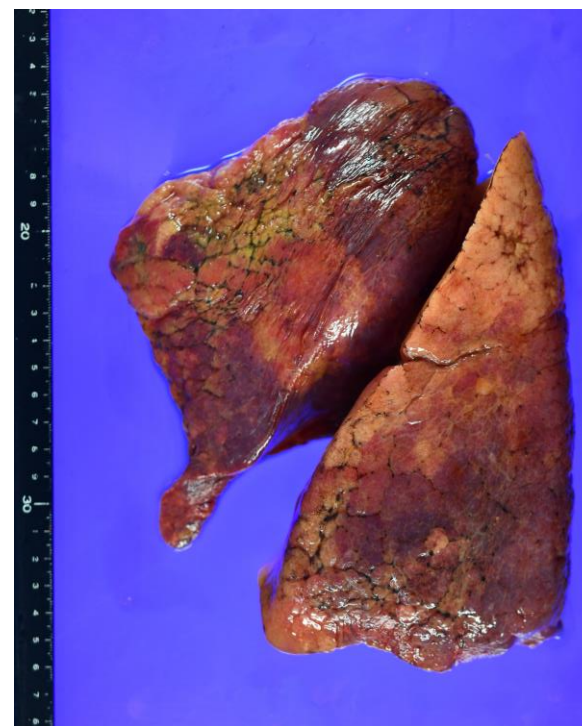
求心性心肥大;
左室で心腔の中心に向かう心筋の肥厚



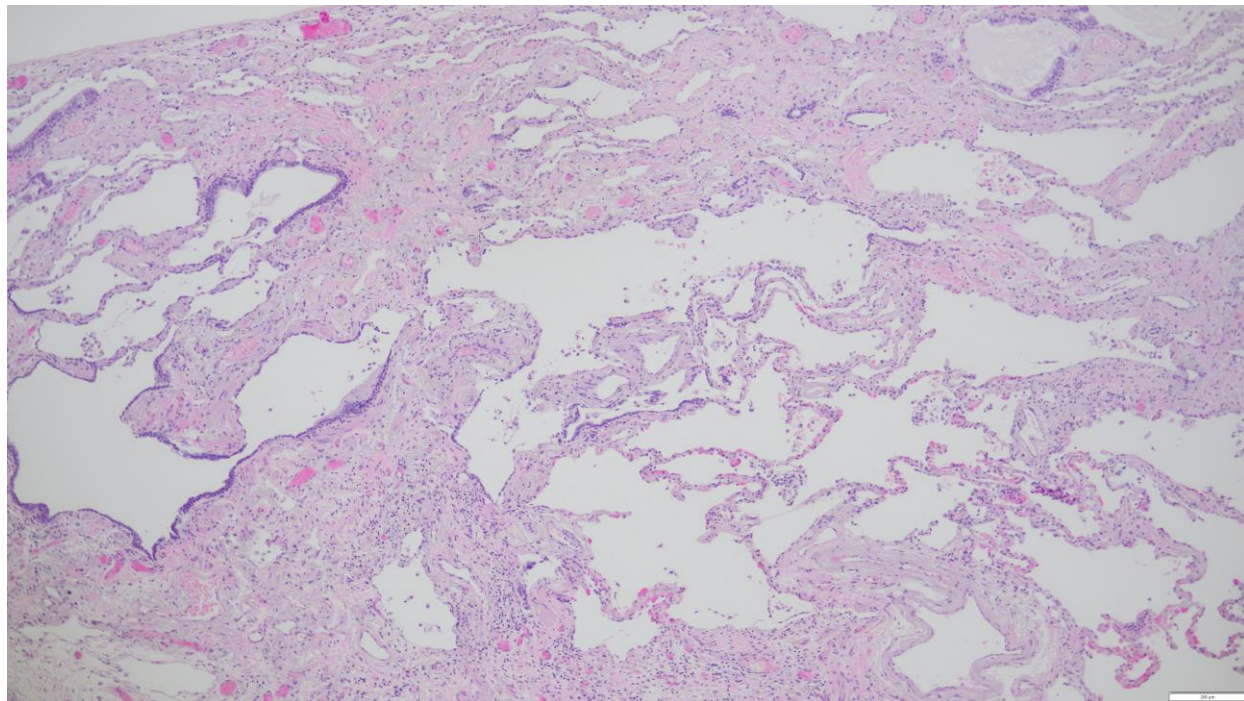
右肺
分葉不全
265 g



左肺
300 g

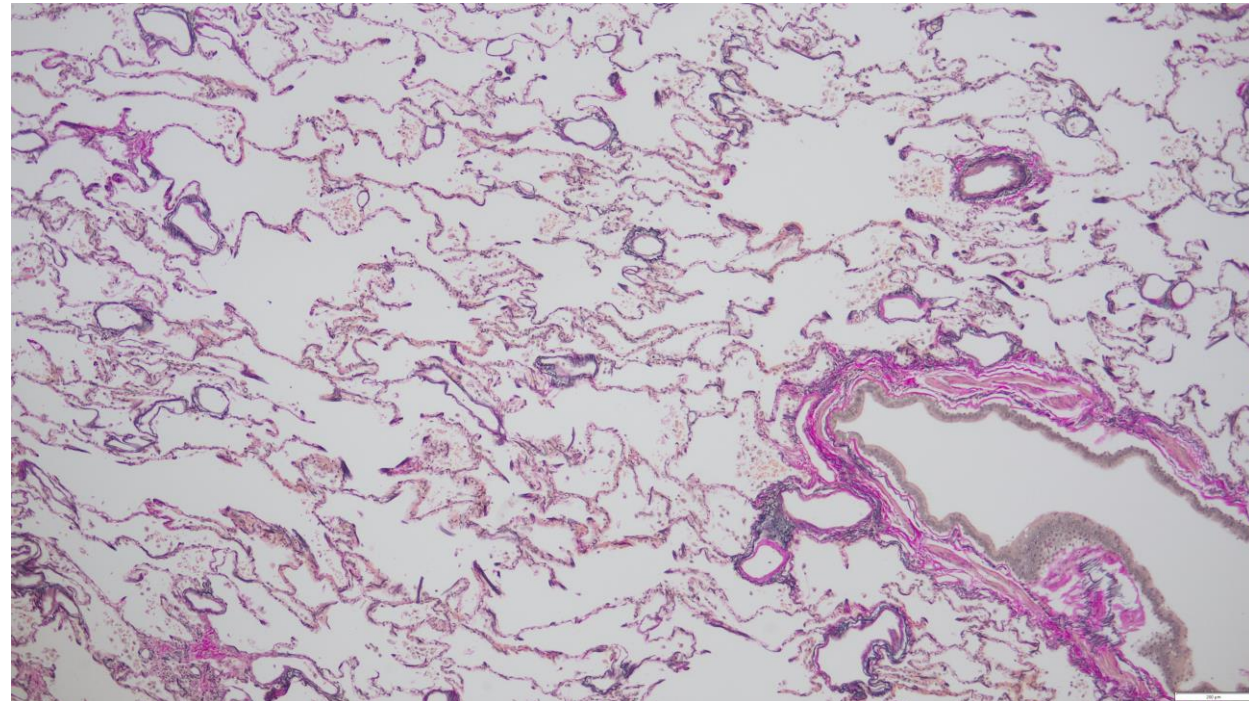


胸膜下に線維化



間質性肺炎疑い

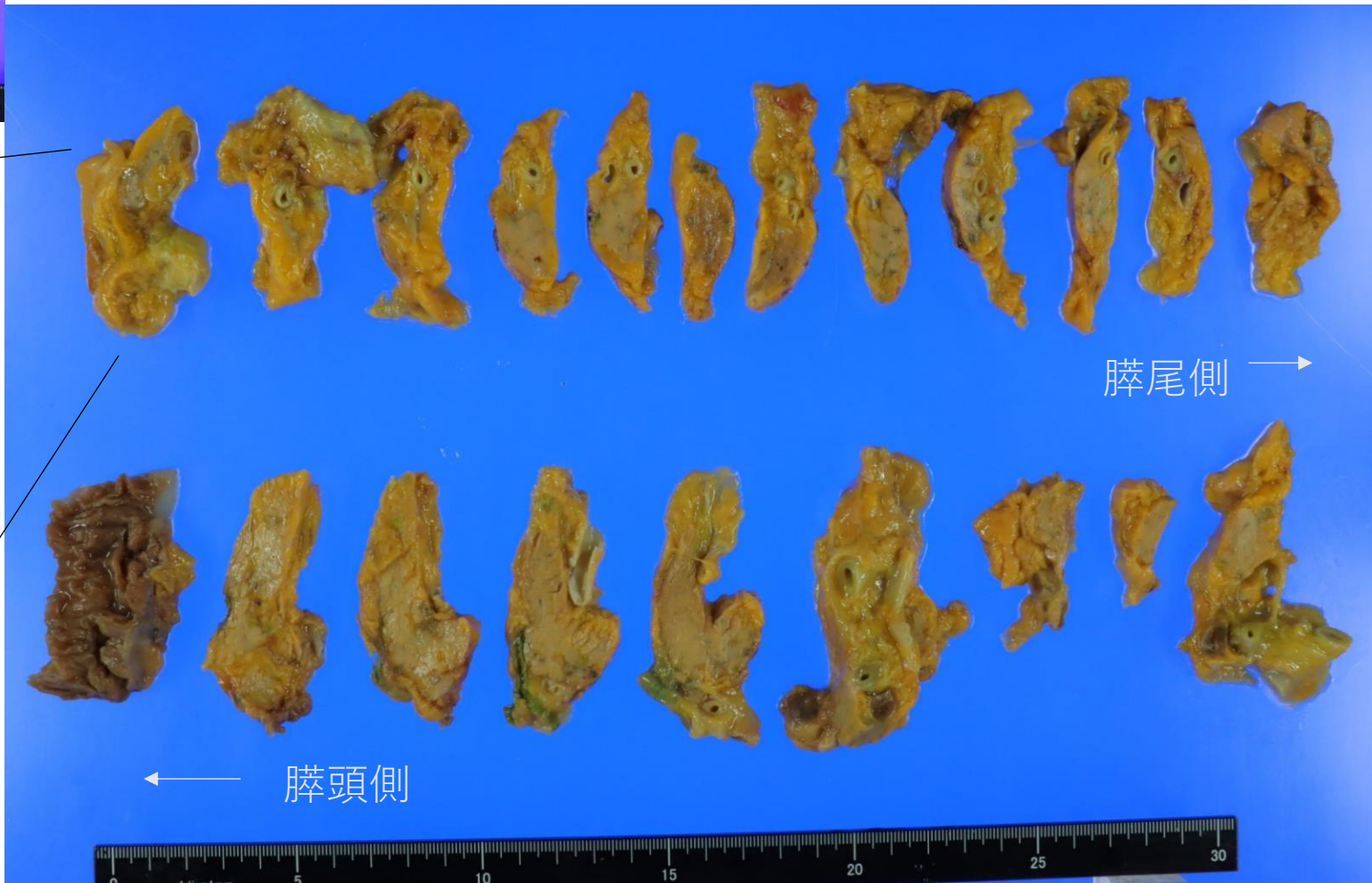
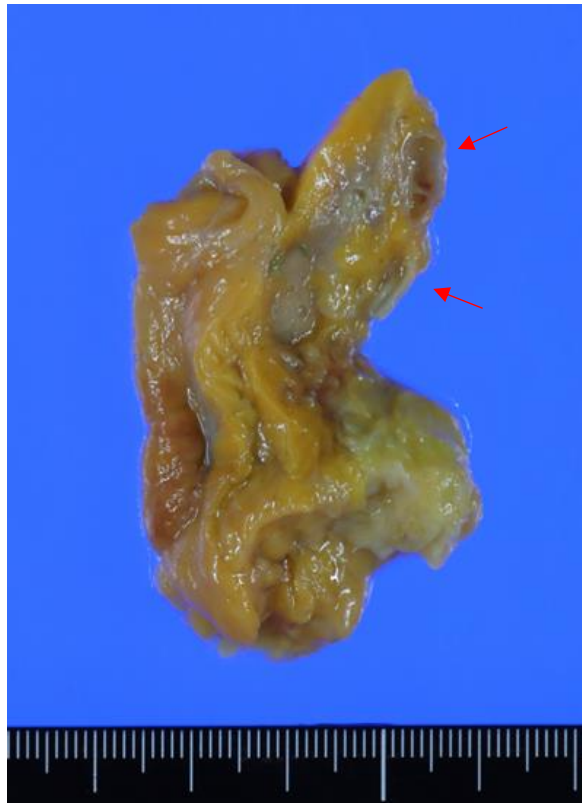
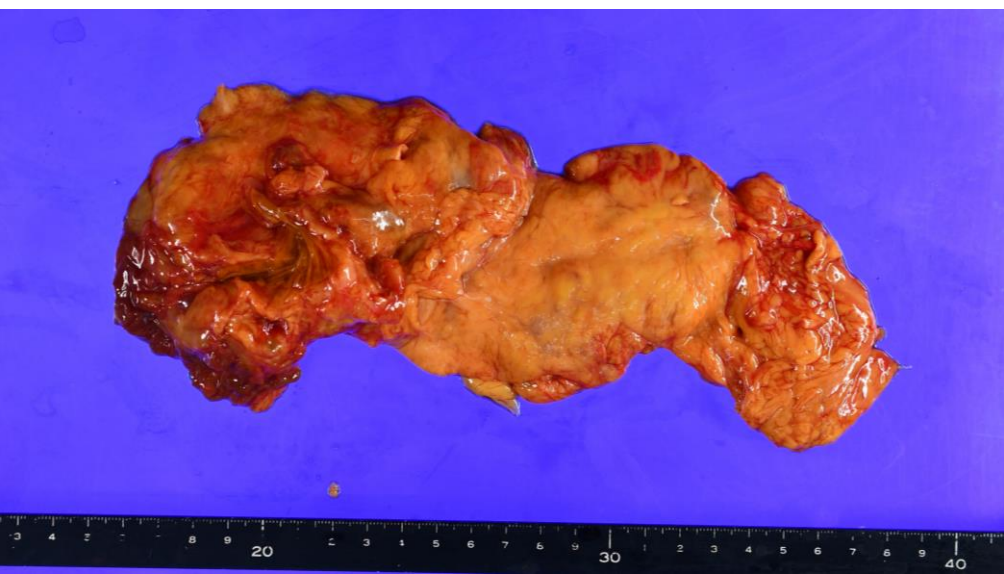
大部分の肺組織は健常

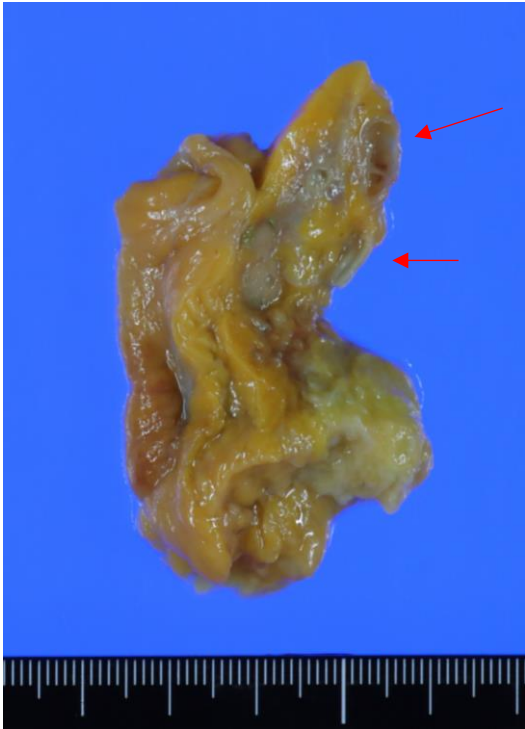


膵臓 (180 g_(十二指腸込み))

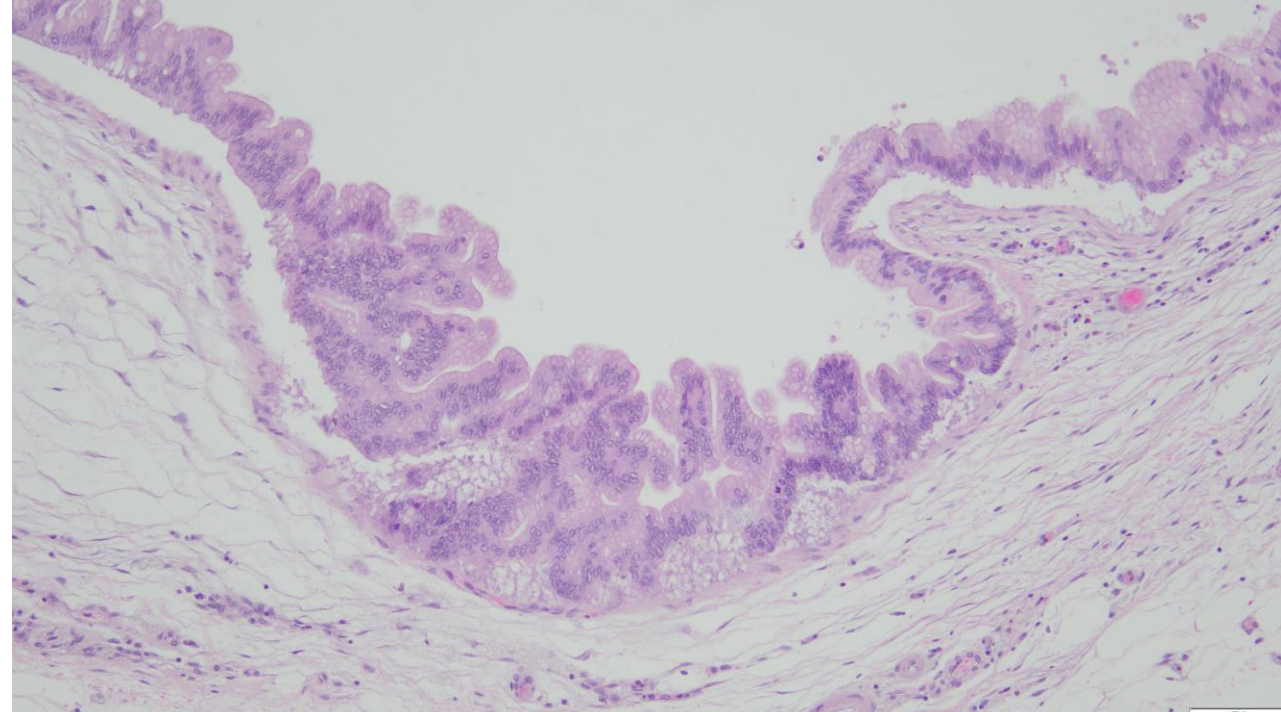
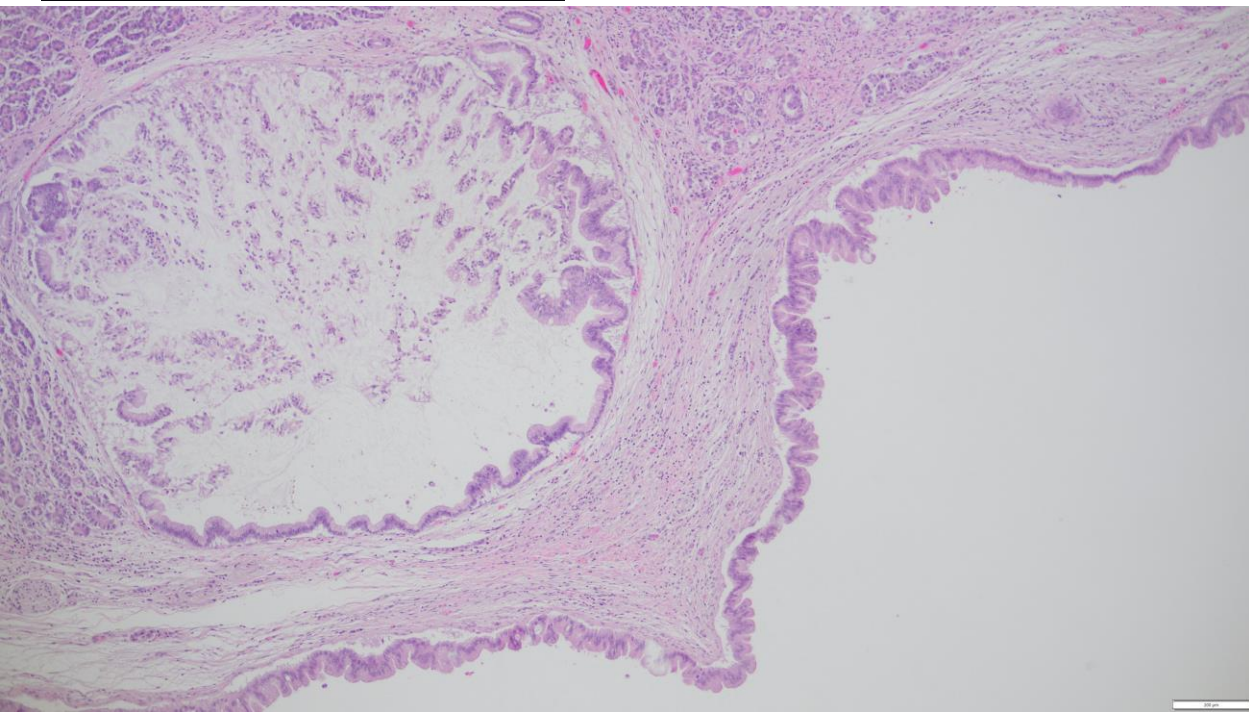
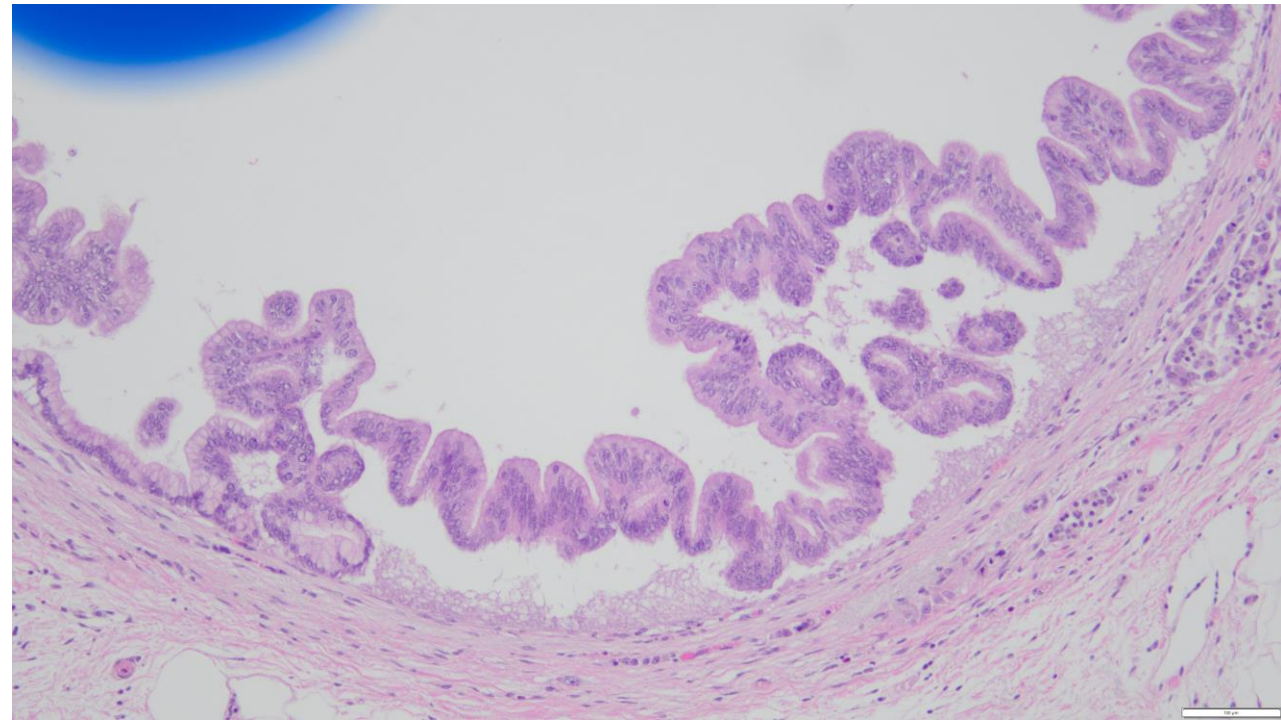
正常の膵臓の重量は約 70 g.

膵体部の小領域に萎縮、分枝膵管の拡張(10x5mm大まで)

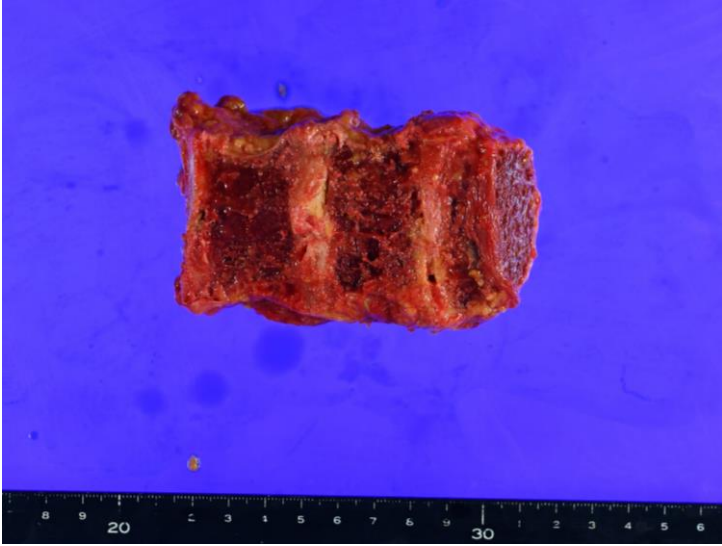




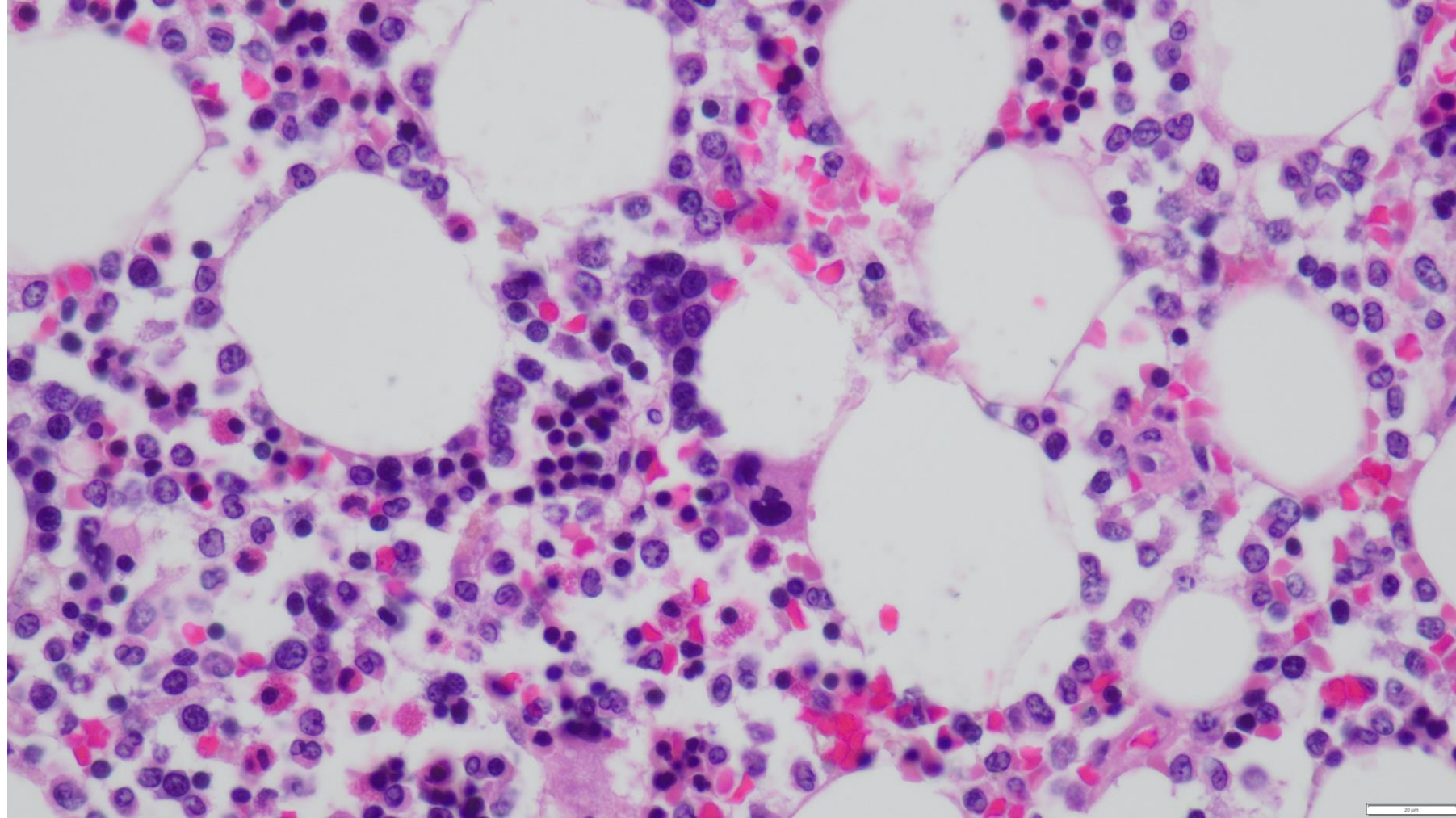
分枝膵管の拡張
(10x5mm大まで)
膵管内乳頭粘液性腫瘍
(IPMN, low-grade)



骨髓 (腰椎)



赤色髄
造血細胞は3系統
(赤芽球系、顆粒球系、
巨核球系)とも認められる。



【主病変】

[肝不全] Acute on chronic liver failure, ステロイド治療後

- a) 肝硬変： 自己免疫性肝炎(AIH) による（肝萎縮： 385g）
- b) 急性肝炎： AIHの急性増悪
- c) 黄疸（全身皮膚、眼球および眼瞼結膜の著明な黄染）（T-Bil 20.6 mg/dl）

【副病変】

- 1. 腔水症： 胸水(Lt: 220ml, Rt: 750ml), 腹水(840ml), 心嚢水(28ml) いずれも黄色透明、漿液性。
- 2. 膵臓（180 g）： 膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN, low-grade)(10x5mm大まで)
- 3. [甲状腺機能低下症]（10 g）
著明な甲状腺萎縮、線維化があり、橋本病(繊維萎縮亜型)が疑われる。
- 4. 腸管虚血
 - a) 大腸： 縦走潰瘍、びらん
 - b) 小腸： 暗赤色調の色調変化。組織学的に、虚血性変化を示す
- 5. 左室求心性肥大(515 g, 左室壁： 17mm、右室壁： 7mm)
- 6. 動脈硬化性病変 a. 大動脈の粥状硬化： 中等度～高度, b. 両側 良性腎硬化症（100g; 85g）
- 7. 両側肺(Lt: 300g, Rt: 265g)： 間質性肺炎疑い